

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2015.1.19 vol.47

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

早いもので、新年を迎えてから  
今日で第3週目の月曜日になりました。  
とても寒い日が続いておりますが、  
皆様、お変わりございませんか？

明日20日は大寒。2月3日の節分まで、  
一年で最も寒い時期ですね。  
インフルエンザも猛威を奮っているそうですから、  
毎日、心と体を温めてながらお過ごしください。

さて、今年2回目のメールマガジンは、  
「今を生きるスターリィマンの物語」の第16話の第1章、  
鎮守氷川神社の鈴木邦房宮司様との出会いをお送り致します。  
それでは、最後までお楽しみいただけましたら嬉しいです。

---

☆第16話「今を生きるスターリィマンの物語」  
～東北の再生復興と日本再生の志に生きる～  
鎮守氷川神社 第36世宮司 鈴木邦房氏

第1章 ～鈴木邦房氏との出会い～

---

埼玉県川口市に鎮座する鎮守氷川神社の  
鈴木宮司様とお会いしたのは、2010年10月1日。

武蔵一之宮氷川神社参道沿いにある  
氷川の杜文化館で開催した「ゆめふるさと秋まつり公演」で  
雅楽演奏をしてくださった氷川神社の権禰宜の遠藤さんからのご縁で、  
公演にお越しいただいた事がきっかけでした。  
<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/2010/11/2010-88fe.html>

鎮守氷川神社をお参りをすると、鈴木宮司様を始め、奥様や数名の神職様が皆様揃って温かく迎えてくださって、お忙しい中、楽しいお話で和ませていただいています。

そして、帰る時は、姿が見えなくなるまでずっとずっと手を振って見送ってくださいます。

そんな明朗で誠実で威厳ある鈴木宮司様のお人柄や鎮守氷川神社の皆様の心づくしのおもてなしに、私たちはいつも深い感動と感謝を感じています。

鎮守氷川神社 <http://chinjyu-hikawa.or.jp/>

2011年の5月には、鎮守氷川神社の心の原風景を描いたスターリマンの作品をご奉納させていただき、同年7月には、「スターリマン紙芝居プロジェクト」の被災地での活動の安全と被災地の復興に祈りを込めたご祈祷をしていただきました。  
<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/2011/07/post-60a9.html>

鎮守氷川神社では、被災地の再生復興のご祈禱を、東日本大震災の翌日の2011年3月12日から2年間毎日17時に欠かさず執り行っておられました。

それだけでなく、定期的に被災地へ出向き、津波で流されてしまった神社様のお宮を建立したり、継続的に寄附を募り、地域の皆様の復興を支え続けておられます。

7月31日から始まった東北での最初の紙芝居の活動が、約1週間の行程すべて無事に果たす事が出来たのも、以後、今日に至るまで活動を続ける事が出来ているのも鈴木宮司様の想いや鎮守氷川神社の神々様のお力に支えていただいているおかげであると感じています。

それ以降、私たちにとって大事な節目の時、例えば「被災地の未来を輝かす心の原風景」のシリーズ9作の原画と版画が完成する度にであったり、「一般社団法人スターリマンからの贈りもの」設立時、「いつも君のそばにいるよ」の出版時、いつもご祈禱していただくようになりました。

鈴木宮司様は、スターリマンの風船を多くの方にお届け出来るように、  
風船を受け取った方々も幸せになれるますように  
毎回、心を込めて祝詞を上げてくださっております。

また、スターリマン復興祈念朗読会を  
鎮守氷川神社で2012年と2013年の3月11日に行わせていただいたり、  
常陸一之宮鹿島神宮様をご紹介くださったり、  
紙芝居の寄贈活動や一般社団法人の活動のご支援・ご寄附など  
数え切れないほどの応援に感謝の気持ちでいっぱいです。

2012年復興祈念朗読会

<http://cplus.if-n.biz/5002049/article/0331108.html>

2013年復興祈念朗読会

<http://cplus.if-n.biz/5002049/article/0388755.html>

出会った方とのご縁を大切に、  
ご縁をいただいた方々の笑顔や幸せのために  
誠心誠意を持って尽くされている  
鈴木宮司様や鎮守氷川神社の皆様とこれからも末永く、  
共に素晴らしい未来を築いていけたら幸いに思っています。

---

「今を生きるスターリマンの物語」  
☆第16話の第2章は、1月29日(木)配信予定です！

---

鈴木邦房氏との出会いは、いかかでしたでしょうか？

出会いは偶然ではなく、必然なんだよと  
色々な方とのご縁から教えていただきます。  
鈴木宮司様との出会いも、  
まさにその通りだと、強く感じるものでした。

鈴木宮司様とご縁をいただいてから、  
要所ごとにご祈祷を賜って参りました。

ご祈祷していただくと、身も心も清められて、  
清々しい気持ちで満たされます。

そして鈴木宮司様から、

「はせがわファミリーの活動は  
神様がまるでチェスをしているかのように  
次はあそこに、その次はここにと  
動かし、導いてくださっているようですね。」

とおっしゃっていただく度に、  
これで良いんだとホッと安心出来る  
気持ちのよい時をいただきます。

言葉では説明出来ないことや  
理不尽なことが起こっても、  
きっとこれには何か意味があるのだろうと  
静かに受け止め、前に進む力を  
いつも本当にありがとうございます。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」  
第16話の第2章として、鈴木邦房氏の家族の原風景を  
お送りいたします。

配信は、1月29日(木)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

『スターリイマンからの贈りもの展 VOL.1』  
～世界中が家族のような温かなきずなでつながる輝く未来のために～  
が、いよいよ明後日21日(水)から「ガレリア原宿」にて開催となります。

この企画展は、スターリイマン美術館設立プロジェクト始動記念として、  
世界中が家族のような温かいきずなでつながり、  
みんなが夢を思い描き、一緒に叶えていけるような  
そんなかけがえのない拠点を皆様と共に創りたいと願い、開催いたします。

すでに何名かの方から、「〇〇日にお伺いします！」とご連絡をいただき、  
とっても嬉しく、皆様にお会い出来ることを楽しみにしています。

是非、スターリマンの絵とお話と朗読の世界を体感しに、  
お越しただけましたら嬉しいです。  
皆様のご来場を心よりお待ちしております！

それでは、皆様にとって素敵な一週間になりますように…！  
今日もお読みいただき、どうもありがとうございました☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2015.1.29 vol.48

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

寒い日が続いておりますが、  
皆様、お変わりございませんか？

さて、1月21日から表参道で開催しておりました  
「スターリイマンからの贈りもの展 vol.1」も  
おかげ様で、26日に無事に終了いたしました。

冷え込みが厳しい中、足をお運びいただきました皆様。  
お祝いと応援のお気持ちをお届けくださった皆様。  
本当にどうもありがとうございました！

お出でいただいたすべての皆様方から  
「是非スターリイマン美術館を！楽しみにしています！」  
との嬉しいお言葉をいただき、  
ますます前進する力をいただきました！

素敵な方々に支えていただきながら、  
スターリイマン美術館設立に向けての  
力強い一歩をふみ出せましたこと、  
心から幸せと感謝の気持ちでいっぱいです。

次回3月のイベント開催に向けて準備を進めておりますので、  
また、お会い出来るのを楽しみにしております☆

そして、翌27日と28日は、福島県郡山市と須賀川市で  
紙芝居の活動を行ってまいりました。

2015年を迎え、未来の夢に向かってスタートしてから  
早1ヶ月が経とうとしていますが、  
すでにたくさんの出会い、温かな日々を過ごさせていただき、  
心から感謝でいっぱい、幸せいっぱいです。

皆様はこの1ヶ月、どんな出会いがあったのでしょうか？

それでは、「今を生きるスターリィマンの物語」第16話の第2章  
鎮守氷川神社の鈴木邦房宮司様の家族の原風景をお送りいたします。

最後までお楽しみいただけましたら嬉しいです。

---

☆第16話「今を生きるスターリィマンの物語」  
～東北の再生復興と日本再生の志に生きる～  
鎮守氷川神社 第36世宮司 鈴木邦房氏

第2章 ～鈴木邦房氏の家族の原風景～

---

---

Q1. ご家族のことを教えてください。

---

父、鈴木知男（ともお）は、大正7年1月23日生まれ、  
母、史子（ふみこ）は、大正10年6月29日生まれです。

兄弟は、7つ違いの兄と4つ違いの姉と2つ違いの兄がおり、  
私は、4人兄弟の末っ子として、昭和30年9月27日に  
埼玉県川口市で生まれました。

現在の私の家族は、一つ違いの妻と  
3人の子供（長男・長女・次女）です。  
長女は嫁いで孫がいます。

---

Q2. お父様のことを教えてください。

---

当神社は、室町時代初期（700余年前／応永年間）に、  
さいたま市大宮区にある武蔵一之宮の氷川神社から  
川口市に分祀創建された神社で、父は第34世宮司でした。

神職だけでは食べて行けないこともあり、  
父は暦学や運命の気学など色々と学んで、  
近くの人たちの相談ごとをみる運命相談所もやっていました。

40歳ぐらいの時に「祥允」と改名をして、  
皆さんからは、祥允先生と呼ばれていました。

家では朝、起きると四方拝をする事が決まりで、  
「昨日は一日お守りいただきありがとうございます」  
「今日も一日お守りください」と  
東西南北に手を合わせてから一日が始まるんです。

父はよく神様の話をしてくれましたし、神社で生まれて育ったので、  
神域とか鳥居の内側とか、そんな特別な意識はなくて、  
ずいぶん広い庭が僕のテリトリーの中にあるなぁという  
意識しかありませんでした。

また、子供の頃、お腹いっぱい食べたことがなかった父は、  
食についても礼儀が厳しく、米粒一粒でも残すんじゃないと言われ育ちました。

父は神様の次に偉かったですから、威圧感というか、  
居るだけで正座が崩せない、そういう父でした。

父の先々代には、鈴木図書（ずしょ）という漢方医もおり、  
柳剛流派の武道、古武道を教えていた先祖もいました。

医学開業の許状には、山形有朋氏の名前が書いてありました。  
先祖はこの地域の名士であったという事が、  
私達のひとつの心の支えでしたね。

---

Q3. お母様のことを教えてください。

---

母の実家は、東京の新橋で羅紗問屋を営んでいました。  
山梨で生まれて、すぐに新橋に引っ越して、そこで育ったそうです。  
戦災ですべて焼かれてしまって、後、埼玉に嫁ぎました。

今、94歳になる母は、穏やかに暮らしていて、  
太陽のように笑い、素朴で質素で、  
公平な立場で子どもたちを見守ってくれる  
本当に寡黙な人なんです。

しかし、若い頃の母の写真をみると  
洋服姿にお帽子をかぶったハイカラな女性で、  
昔は、資生堂パーラーでお茶を飲んだり、

お友達の別荘で夏休みを過ごしたり、テニスをしたり、御付の人が身の周りのお世話をするような暮らしをしていたそうです。

新橋の家もお店も戦災で焼けだされて、何もかも無くなって、戦争によって、運命が変えられたような感じでしたね。私が知っている母親像と、嫁ぐ前の実家での話はまったく別人でした。

母の母親・祖母は、鹿鳴館でダンスを踊ったことのあるような人で明治の女性らしく、亡くなるまで気位が高かったですね。

私が幼かった頃、お正月用のお札を作りに祖母が手伝いにきてくれたのですが、私達兄弟の話し方を聞いては「あなたたち東京に行ったら笑われるわ」と言われました。

---

#### Q4. どんな子供時代を過ごされましたか？

---

今の私からは、想像もつかないほど体が弱くて、お調子もので、人前になんてとてもとても！と思うような子どもでした。

私が子供時代を過ごした昭和30年代は、川口の一帯はキューポラの町で鋳物屋さんの隣は機械屋さん、その隣が鋳物屋さん、また隣が機械屋さんという感じでした。

鋳物屋さんが鉄を造る時に出る「のろ」という老廃物がまとまったものは、鼻につんとする匂いがするのですが、その匂いの中で、登下校をしていました。

小さい時は、舗装されていない砂利道を馬が重い鋳物を運んでいて、道には馬の糞があって馬の糞を踏むと背が伸びると言われていたんです。

その馬が行った後に、ロバのパン屋さんが来て玄米パンとか買ってもらったりというのが、子供時代の原風景でした。

私の7つ違いの兄は、毎日勉強しては、英語の先生になりたいと夢を持っていました。

私は、小学校5年生の時から、2番目の兄と一緒に朝6時半から兄に英語を習いました。

父が神様の次だったら、兄は父の次ですから  
もうやるとかやらないとかということではなく、  
兄の言うことも絶対だったもので、  
そうするんだと言ったら、言う通りにするものだと思っていました。

下の兄は、美術の感覚を小さい時から持っていて、  
食卓で卵があると、すごい形だなあ。  
卵ってきれいなあと言う子どもでした。

小学校の時から、写生大会ではいつも一番。  
僕は何にも一番になったことはなかったから、  
兄はすごいなあ、すごいなあと思っていました。

小学校の運動会の時、来賓席で見ている父にアピールしたいと  
4年生から6年生までリレーの選手になって頑張ったこともありました。

---

Q5. いつから神職を目指されたのですか？

---

私は上の兄と下の兄と同じ私学の中学・高校に進みましたが、  
中学生の頃から、きっと将来は神主さんになるだろう  
という思いがありました。

神主さんは人前でお話するお仕事だから、  
学級委員長になれば、神主さんの基礎を築けるかもと  
中学1年から3年の3年間は、学級委員長を通しました。

中学2年生の時、図書委員会に入り、  
そこで須田先輩に出会いました。

須田先輩は剣道部にも入っていて、先輩の剣道が格好よくて、  
見学に行った日から剣道部に入り、  
それから一日も休まず剣道に打ち込みました。  
中3では、剣道部の部長も務めました。

今思うと、精神的に弱かったから、体もひ弱だったのだと思いました。  
須田先輩に巡り会ってなかったら、  
私はこんな体になっていなかったことでしょう。  
出会ってすごいですよね。

中学で学級委員長を3年間続けて、  
クラスをまとめることができるようになったので、  
高校では、学校をまとめてみようということで  
生徒会長になりました。

先生と生徒にすきまがあってはならないと  
職員室に生徒会長の机を置いてもらったり、  
月1回の職員会議に出席させてほしいとお願いをしました。

また朝礼では、まず生徒会長が挨拶をしてから  
校長先生にご挨拶をいただくようにしたり、  
文化祭・運動会は生徒主体で動けるように色々と改善しました。

大学は神職になるために、國學院大学の神道科に入りました。  
私は、日本一の神職になれば、  
世界一の神職になれるという気持ちで  
日本一の神職になることを目指しました。

大学2年の時、父が他界しました。  
上の兄が、同じく國學院大学の神道科を卒業していましたので、  
父の後を継ぎ、第35世宮司となりました。

しかし、兄は英語の教師になる夢を持っていましたので、  
私が大学を卒業するまでの間だけ宮司を務めました。

私が大学を卒業して、第36世宮司になった時、  
兄は米国のセント・マイケルズ大学院で  
修士号を見事取得しました。

---

Q6. 苦しかったことを乗り越えられたのは？

---

大学時代に、島根県の神社の跡取り娘だった妻と出会い、  
卒業後、結婚しました。  
当時のお参りは、お宮参り、七五三、月何軒とかで  
お正月は男が3人ほど手伝う位で、巫女さんはいませんでした。

妻と二人で切り盛りしていたので、  
家内が子供をおんぶして受付したり、  
家内がない時は、私が子供をだっこして受付するような  
そんな村の鎮守様でした。

今では、お正月は50人位いないと出来ませんので、  
当時からすると50~60倍位お参りいただいているということになりますね。

この頃は、買い物なんて滅多にできなかったのも、  
欲しいものはまったく買えなかったし、  
毎日どうやって食べて生きていけるかしかなかった。

地鎮祭で、いただいたお供え物を  
どう美味しく戴くかしかなかったですね。  
お供えもので生きていく、まさにそういう生活でした。  
でも私たち夫婦は、楽しくやるということしか考えていなかったですよ。

例えば、私が25歳の時の毎年恒例のお祭りで、  
雨が降って来たんですね。

ちょうど、総代長さんのところに雨漏りがあったんです。  
神社で雨漏りは聞いたことないという話になり、  
社殿の屋根を宮大工さんに見てもらって  
修復か、新社殿建設かの相談をしました。

それから色々な方々のお力をいただきまして、  
30歳の時に新社殿の建設が始まり、  
31歳の時に、竣工できました。

実は、本殿だけでなく社務所も老朽化していて、  
完成した新社殿と不釣り合いになっていたのですが、  
皆様には、新社殿建設で多大なご支援をいただきましたので  
これ以上はお願いできないような状態だった時でした。

そんな時、氏子さんの盆踊りがあったんです。  
その時も急にバケツをひっくりかえすような  
土砂ぶりの雨が降って来て、社務所で皆様が雨宿りをした時に  
また、雨漏りにあったんです。  
そして、皆様のお力で社務所も新しくなりました。

氷川神社のスサノオノの神様は水の神様ですので、  
お助けくださったのかなと感謝しましたね。

この事は、神社界でも注目の出来事だったようで  
竣工の苦勞話をしてほしいと依頼されました。

その時にお話させていただいたのは、  
生きがいとかライフサイクルとか

すべて神様に投じてみたら、毎日楽しくてしょうがない。  
楽しい楽しいと思ったら、絶対神社は新しくなりますから。  
楽しく皆さんやってくださいとお話しました。

妻とはいつも「私たちって、苦勞したと思ったことがないよね。  
どんな時も笑っていたよね」と言っています。

掃除をしたり、挨拶したり、何をするにも  
すべて楽しくやっていると人が寄って来てくれます。  
一生懸命やるのは良いけど、過ぎると周りが見えなくなるんです。  
来た人も一生懸命にやっている人に、声をかけにくいじゃないですか。

楽しくやっていると、みんなが助けてくれるんだなあ  
笑って白い歯を見せた方が、神社は似合っているなあというのが私の原点です。

---

Q7. 東日本大震災の被災地支援について教えてください。

---

私たち夫婦は0から積み上げて、楽しさに変えられましたけど、  
被災地の皆様は0の厳しさが違います。

同じ0でも、被災地の皆様は厳しい0なんです。  
それは、阪神淡路大震災の時に経験して気づきました。

阪神の震災の時、私は全国に8万社ある  
「神道青年全国協議会」の副会長をしておりました。

会長は大宰府天満宮の西高辻宮司さん、  
私のほかに副会長は、下谷神社の阿部宮司さん  
福島稲荷神社の丹治宮司さんというメンバーでした。

余震も残る震災後3日後に、神戸に入りましたが、  
ここでは迷惑になると感じて、  
大阪の服部天満宮を拠点にして支援活動を始めました。

バイクでブルーシートを配る手配をしましたが、  
すでに配られていて、次に必要なものは何か、  
どのようなことが支援につながるかを、この時の経験から知りました。

震災時、いち早く届けるのがブルーシート。  
その次に避難所のごはん、離乳食、電池、カンテラなどの灯り、  
暖房器具、ホカロン、オムツ（老人用）などです。

私達は、こういった物資の支援だけでなく、  
神職のネットワークを活かし、  
震災で崩壊したお社の再建に取り組みました。

このような活動をするために、関東、東北、北海道等々と  
それぞれのリーダーを決めて支援しようということになり、  
私は関東のリーダーを任せられ、関東の神社様に応援を頼みました。

ひとつの怪我や事故もなく、支援応援活動を終えたことは、  
今回の東北の震災にとっても役に立ちました。

当神社では、2011年3月11日より2年間、  
夕方5時に一日も欠かさずに、  
東北の復興再生に祈りをこめて、大祓いのご祈祷をしていました。

また、震災の日より現在までに300万円にもものぼる義援金の善意を受け、  
仙台や南三陸の神社様を通して子供たちにプレゼントを贈るとか、  
福島原発周辺の支援を行うとか  
行政では届かないところに義援金をお贈りしたりしました。

息子（権禰宜）が、福島に行くたびに、帰ってきて、  
変わりゆくものと変わらないものを話してくれるんですが、  
「現地はまだ、時間が止まっている場所が沢山あります」という  
報告を受けます。

せめて30年ぐらいは、語り継ぎ、忘れないで心を置いてほしいと願います。  
現実を見て、訴えて行かないと行けないと思います。  
被災した方々が、普通の生活を取り戻すまでは…。

---

Q9. 鈴木宮司さんのスターリィマンは誰ですか？

---

まず、家族がいて、すべてが生かされている感じがあります。  
現実的にも精神的にも家族なんでしょうね。

その上で、これまでにターニングポイントを作ってくれた方々を  
スターリィマンとして挙げれば、妻です。そして中学校の時の須田先輩。

価値観が一緒だという事が、スターリィマンの条件かもしれませんね。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第16話の第3章は、2月9日(月)配信予定です！

---

鈴木邦房氏の家族の原風景は、いかかでしたでしょうか？

2011年5月にご奉納させていただいた  
鎮守氷川神社様の原風景の作品を創作する上で、  
ご家族が育てこられた温かさ、誇り、きずなを感じ、  
深く共感するものがありました。

鎌倉時代に創建された鎮守氷川神社様を、  
奥様と共に未来へと受け継ぎ、  
日本再生への道を目指しておられる鈴木宮司様。

これからも神様と私たちを温かくつなぎ、  
幸せへの道しるべを示してくださることでしょう。

さて、今回は「今を生きるスターリィマンの物語」第16話の第3章として、  
鈴木邦房氏のスターリィマンへの感謝のレターをお送りいたします。

配信は、2月9日(月)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

さて、鈴木宮司様よりご縁をいただきました  
常陸一之宮鹿島神宮様へのご奉納作品の朗読公演が  
正式に決まりましたので、  
メールマガジンをお読みいただいている皆様に  
いち早くご案内させていただきたいと思います。

復興祈念朗読演奏会

「東日本大震災からの復興再生を語り継ぐ鹿島神宮物語」

日時 平成27年3月1日(日)10時40分～（おついたち参り終了後）

場所 鹿島神宮 参集殿

所在地 茨城県鹿嶋市宮中2306-1 / TEL 0299-82-1209

演目 「東日本大震災からの復興再生を語り継ぐ鹿島神宮物語」

原作 はせがわいさお（絵）・はせがわ芳見（お話）

出演 はせがわゆき（朗読）・こと（篠笛）

詳細 [http://www.dream-hasegawa.com/event/2015.03.01\\_kashimajingu.pdf](http://www.dream-hasegawa.com/event/2015.03.01_kashimajingu.pdf)

震災から4年を迎えるにあたり、  
鹿島の神様と共に、皆様お一人お一人の鹿島立ちを願って  
公演においでいただけましたら、とても嬉しく思います。

尚、お席に限りがございますので、ご参加いただける方は、  
下記まで事前のご連絡をお願い申し上げます。  
yosihmi@dream-hasegawa.com（はせがわ芳見宛）

もうすぐ節分、立春になりますね。  
梅のつぼみもふくらんで、春が一日一日近づいています。

それでは、皆様、お身体にお気をつけて、  
夢を叶える毎日をお過ごしくださいませ。

本日もお読みいただき、どうもありがとうございました☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.2.9 vol.49

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

2月4日に立春を迎えましたが、  
まだまだ寒い日が続きますね。

皆様、お変わりございませんか？

「立春」とは、冬と春の節目である「節分」の翌日で、  
「寒い冬から暖かな春へと入る日」のことを言います。  
旧暦では一年の始まりは立春からと考えられていたそうです。

さあ！今年の夢に向かっていよいよスタートの時です。  
皆様にとって、ご多幸な一年になりますように願って…☆

それでは、「今を生きるスターリィマンの物語」  
第16話の第3章 鎮守氷川神社の鈴木邦房宮司様の  
スターリィマンに宛てた感謝の風船レターをお送りいたします。

最後までお楽しみいただけましたら嬉しいです。

---

☆第16話「今を生きるスターリィマンの物語」  
～東北の再生復興と日本再生の志に生きる～  
鎮守氷川神社 第36世宮司 鈴木邦房氏

第3章 ～鈴木邦房氏のスターリィマンへの感謝の風船レター～

---

私のスターリィマン達へ

須田先輩

私が中学2年の時、体が弱く、学校の病欠も頻繁で、部活動も続かず保健室に入り浸りだったころ、高校3年のあなたに巡り会いました。

図書委員会で一緒にさせて頂く日々、あなたは時間が来ると「剣道部だから失礼」と言って颯爽と道場に向かって行きました。

その姿が実に凛々しく、勇ましく、憧れでした。

そんなある日、「鈴木くん、剣道部に来てみないか」。それが私のターニングポイントになるうとは。その日から私は、剣道部員となりました。

もとより貧弱な私には、不安な要素が一杯でしたが、とにかく導火線に火が付けられた気がして、あとは爆発するしかないと思っていました。

そんな私をやさしさと思いやりで指導頂き、部活はもちろん、学校も欠席することはありませんでした。

みるみる体はつくられ、精神的にも強くなることが出来ました。

「人生が変わった」という実感を与えて下さった須田先輩に心から敬意と感謝を申し上げます。

もう一人のスターリィマンである妻、通子へ

今の私、今の神社があるのは、ほとんどと言って良いほど、あなたの支え、能力、内助の功が、あったればこそと思っています。

結婚当初、主婦業はもちろんのこと、神職資格を持つあなたは、私の留守中等、受付案内、ご祈祷に至るまで精力的にこなし、また、子育ての合間に様々な資格を取得する等、まさにオールマイティーな女性でした。

私は、若い頃から、神社界で活動して来ました。  
それが出来たのは、家、神社を守り、子供達の良き母である  
あなたが居てくれたからこそと思っています。

言葉にするのはとても難しい事ですが、  
この二文字にすべての思いを込めて…。

「感謝」

平成27年2月5日

鎮守氷川神社宮司 鈴木邦房

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第17話の第1章は、2月19日(木)配信予定です！

---

鈴木邦房宮司様のスターリイマンに宛てた  
感謝の風船レターはいかがでしたでしょうか？

須田先輩と奥様のスターリイマンへ  
思いをこめて「感謝」をお伝え頂きましたお手紙に、  
なんとも温かい鈴木宮司様のお人柄が溢れておりました。

私たちの活動を心から支えてくださって、  
神様にお導き頂く道を照らして頂いて  
まさに私たちのスターリイマンであると  
鈴木宮司様をご紹介させて頂いて、強く感じております。

感謝のあるところには、  
神様が見守ってくださっていることを思いました。  
ありがとうございます。

2月4日の立春の日。  
今年、前厄である主人と娘は、  
鈴木宮司様の鎮守氷川神社にて、  
厄祓いのご祈禱を頂きました。

鈴木宮司様の祝詞は、私たちの心に響き渡り、  
神聖な気持ちでこの1年を歩いていける力を頂きました。

厄年は、一見悪い事のように思いますが、  
厄祓いで「厄」を祓い、世の中の「役」に立つように  
生まれ変わることが出来るのだそうです。  
なんと有り難いことでしょう。

ご祈祷の後、鈴木宮司様から  
メルマガを読んでくださっている皆様へと  
今年の干支をまとめたお話を頂きましたので  
最後にご紹介致します。

---

平成二十七年 干支のお話し「未（ひつじ）」  
鎮守氷川神社 三十六世宮司 鈴木邦房

---

昨年の「午（うま）」は、  
折り返しや、二つのものを分けるという意味があり、  
吉と凶、陰と陽、明と暗など分岐に立つことを暗示します。

私たちが岐路に立たされたり、  
判断を必要とされた時の「慎重さ」や、  
必要に応じた「判断力」が試された年ではなかったせしょうか？

いずれにしても、良い時は謙虚に、かつ慎重に。悪い時は前向きに、  
という信念も培われたのではないかと拝察いたします。

さて、「未（ひつじ）」は、時刻でいうと、午後二時。  
その昔「昼休み」に当てられた時刻だそうです。

「未」という字を解説すると…  
植物が成長する過程で「結実」するために、  
伸びきらず待ち構えていることを表します。

そして、その準備として「折れぬよう」「倒れぬよう」  
支えている象形文字なのです。

また、「現状維持」という意味もあり、  
成長し続けた植物も、一見「休んでいるように」、  
また、「状態が変化していないように」見える時なのです。

しかし、これはやがて「大輪の花」を咲かせるために「英気を養っている」ということなのです。

勢いよく走ってきた人生も少し休んで、次のステップに向かう準備をする時と言えるでしょう。

今まで歩んできた道を振り返り、良かったところ、また、悪かったところを良く見極めて、前に進む準備をします。

日々の仕事や人生において、停滞しているように感じたり、同じことの繰り返しにより、マンネリ化しているように思えても、それは、明日への発展のためと信じ、忍耐と努力で乗り切ることが肝心です。

結果が出るのが遅いかもしれませんが、また、すぐそこまで来ているのかもしれませんが、しかし、必ず良い結果をもたらしてくれると言われるのが「末年」なのです。

そして、こうしてやっていけるのも、多くの支えがあったればこそと再認識し、天の恵み、人と人とのおかげ様への感謝の心を抱きつつ、一日一日を大切に過ごしましょう。

それが積み重なり、週、月、年になっていきます。

動物でいうと「羊（ひつじ）」が当てられます。「羊は祥なり」と、古書に出ております。つまり、羊は古い時代から神聖なものと考えられてきました。

美・善・儀等の一部を成すところから「羊」はめでたく、性質が善いとされているのが伺えます。

このことから言うと、本来「群れ（むれ）」は、性質の良いものがまるくまとまる…という意味なのです。

本来はこの温順で、やさしい心の象徴でもある「羊」のように、穏やかに潤いのある心で未来を考える年にしたいものです。ささやかな幸せを大きな幸福へ、わずかな達成感も大きな喜びに…やがて美しい花や、美味しい実を付けるために…。

---

鈴木宮司様は、神社にお参りする毎に、  
こういった色々な日本のこころや神様のお話を  
楽しくお話しして下さいます。

最近少し元気が足りないな、という方や、  
何か新たな一歩を踏み出す決意をされている方は、  
是非、鎮守氷川神社にお参りになってはいかがでしょうか？

きっとたくさんの元気の氣を頂ける事でしょう！

【鎮守氷川神社HP】 <http://chinjyu-hikawa.or.jp/>

【宮司のちょっといいはなし】 <http://cplus.if-n.biz/5002049/party/17496>

さて、次回の配信は、2月28日(土)になります。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

先月、スターリィマン美術館設立に向けた  
第一弾の企画展を開催させていただいた後、  
今年一年の計画や、将来の目標等を  
日々考え、実行に移す準備をしています。

2月は、他の月よりも短いので  
あっという間に過ぎてしまいそうですね。  
一日、一日を大切に、そして有意義に  
過ごしてまいりたいと思います。

さて、前回のメルマガでもお伝えさせていただきましたが、  
3月1日に常陸一之宮鹿島神宮で開催させていただく  
ご奉納作品の朗読公演のご案内です。

---

復興祈念朗読演奏会

「東日本大震災からの復興再生を語り継ぐ鹿島神宮物語」

---

日時 平成27年3月1日(日)10時40分～（おついたち参り終了後）

場所 鹿島神宮 参集殿

所在地 茨城県鹿嶋市宮中2306-1 / TEL 0299-82-1209

演目 「東日本大震災からの復興再生を語り継ぐ鹿島神宮物語」

原作 はせがわいさお（絵）・はせがわ芳見（お話）

出演 はせがわゆき（朗読）・こと（篠笛）

詳細 [http://www.dream-hasegawa.com/event/2015.03.01\\_kashimajingu.pdf](http://www.dream-hasegawa.com/event/2015.03.01_kashimajingu.pdf)

震災から4年を迎えるにあたり、鹿島の神様と共に、  
皆様お一人お一人の鹿島立ちを願って  
公演にお出でいただけましたら、とても嬉しく思います。

尚、お席に限りがございますので、ご参加いただける方は、  
下記まで事前のご連絡をお願い申し上げます。

yosihm@dream-hasegawa.com（はせがわ芳見 宛）

---

それでは、皆様、お身体にお気をつけて、  
夢を叶える毎日をお過ごしくださいませ。

本日もお読みいただき、どうもありがとうございました☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---